

News Letter

女性研究者活動支援室

2016.9
第4号

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 ROIS — Research Organization of Information and Systems

情報・システム研究機構 (ROIS) は国立極地研究所、国立情報学研究所、統計数理研究所、国立遺伝学研究所、データサイエンス共同利用基盤施設から構成される大学共同利用機関法人です

平成28年度 情報・システム研究機構 (ROIS) 女性研究者活動支援室 は新しいスタッフを迎え更なる活動を開始しました。

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」『ROIS女性躍進プログラム』は3年目を迎えました。
今年度は6月に新コーディネーターとして中村淑子特任研究員が着任しました。

ROIS 女性研究者活動支援室 ● コーディネーターとして着任しました！

平成28年度6月1日付けでROIS女性研究者活動支援室のコーディネーターに着任した中村淑子です。8年8か月に及ぶ英国留学を通じて、ヨーロッパの女性たちの活躍ぶり、数々のライフイベントを経験しながら研究に関わり続ける意志の強さに、忘れがたい印象を受けました。男女共同参画推進活動に取り組み始めてまだ日は浅いですが、4研究所で様々な分野で活躍される研究者の方々とともに本プログラムを進めていけることを非常に光栄なことと感じています。皆様にお目にかかれる機会を楽しみにしています。どうぞよろしくお願いたします。



特任研究員
中村 淑子

情報・システム研究機構活動報告(4月~8月)

女性活躍推進法に基づく行動計画を策定しました <http://yakushin.rois.ac.jp/> に掲載

1. 計画期間 平成28年4月1日~平成34年3月31日
2. 課題 (1) 多様な研究者の確保、研究活動の活性化のため、女性研究者の占める割合を高める必要がある。
(2) 組織の活性化を図るため、教員の管理職に占める女性の割合を高める必要がある。
3. 取組内容及び実施時期
 - 目標1: 女性研究者の占める割合を20%以上とする
 - ・教員や博士研究員等の募集要項には、研究・教育・社会貢献等の能力・業績を総合的に評価して同等と認められた場合には女性を積極的に採用する旨を明記する。
 - ・機構本部及び各研究所に設置した女性研究者活動支援室の更なる周知を図るとともに、各支援室の連携を強化し、女性研究者に対する支援と環境整備を促進する。
 - ・広報活動などを通して、機構本部や各研究所が男女共同参画に熱心で、女性研究者が働きやすい場所であることを広く伝える。
 - ・講演会や研究所見学などにより、研究の面白さ・やりがいを伝え、未来の女性研究者の裾野を拡大する。
 - 目標2: 教員の管理職に占める女性の割合を15%以上とする
 - ・女性研究者を対象として管理職育成を目的としたキャリア研修プログラムを検討、実施する。
 - ・教育研究の充実に向けた必要な職場環境の改善、性別にとらわれない昇任等を行う。
 - ・女性研究者を計画的に管理職に登用可能とするキャリアパスの確立の方策を講ずる。

新コーディネーターが4研究所を訪問しました

下記の日程で4研究所を訪問し、今年度の活動方針についての情報交換を行いました。

- 7月4日 国立極地研究所女性研究者活動支援室(立川)
- 7月7日 国立情報学研究所女性研究者活動支援室(神保町)
- 7月12日 統計数理研究所女性研究者活動支援室(立川)
- 7月15日 国立遺伝学研究所女性研究者活動支援室(三島)

平成28年度第1期研究支援員制度利用実績

平成28年度第1期は、27年度利用者6名のうち4名が利用継続となり、更に新たに4名の利用増となりました。

所属	人数
国立情報学研究所	4
統計数理研究所	2
国立遺伝学研究所	2

国立極地研究所一般公開『極地研探検2016』

8月6日(土)

国立極地研究所(極地研)では、極地に関する研究活動や共同利用、南極観測事業、北極研究観測や大学院教育を行っています。それらの内容を市民の皆さんに伝え、より一層の理解と協力を得るために、毎年8月初旬に一般公開『極地研探検』を行っています。

この日は最高気温が35度近くになる真夏日でしたが、会場には南極の氷に手を触れられる展示や、スノーモービルに乗っての記念撮影、極地調査で実際に使用された機材や研究材料、美しいオーロラの映像、北極・南極に生息する生きものたちの映像や隕石などについて、普段は極寒のフィールドを舞台に活躍する研究者達がサイエンスカフェや実演、展示などを通じて市民の皆さんに研究内容等を分かりやすく説明していました。そんな一般公開での女性研究者の活躍の様子がROIS女性研究者活動支援室のスタッフが取材しました。



題材は日本ではなかなか見ることのできない南半球の星座、「南十字星」で、アクリル板、手芸用のテグス、粘土、LEDライト等、100円ショップで売られている身近な材料を使って工作します。出来上がった作品は目から30cm離して見ると、実際に見える星座のサイズと同じになるように考えられ、遠い星空が身近に感じられるような工夫が随所に施されていました。「いつか南十字星を見るときには、この作品を30cm離して見比べてね」との江尻助教の言葉に子どもたちは元気よく返事をしていました。

極地研は、総合研究大学院大学(総研大)の基盤機関として、研究者を目指す大学院生を受け入れています。『極地研探検』では総研大のブースも設けており、進学を考える大学生が次々に訪れ次世代の研究者へ「科学する心」が引き継がれる瞬間を目の当たりにしました。

ブースで説明を担当していた複合科学研究科極域科学専攻 2年生の島袋羽衣さんは「渡りの場所によって生理状態に変化はあるの



天売島での調査の様子を説明する島袋さん

か」というテーマでウトウという海鳥の研究をしています。北海道の天売島でのウトウ調査の様子を収めた写真を使って自分の研究内容や総研大について来場者に熱心に説明をしていて、その姿はすでに研究者としての歩み始めていました。



スライドを使ってクマムシの説明をする辻本特任研究員

サイエンスカフェ「南極のミクロな世界へようこそ」では、南極のクマムシを研究している生物圏研究グループ辻本恵特任研究員によるトークが行われました。南極のクマムシに関する研究成果は、今年1月に

報道発表され、多くの新聞に取り上げられたこともあり、立ち見も多く出るほどの人気でした。南極で採取され30年6か月間冷凍保存されていたコケを水に浸してクマムシを探しだしたところ見事に復活し、さらにこのクマムシがその後卵を産み繁殖もしているというから驚きです。子ども達からは「南極のクマムシと日本のクマムシとの違いは？」など鋭い質問も寄せられましたが、辻本特任研究員は腰をかがめて子どもと同じ目線で丁寧に答えていたのが印象的でした。

サイエンスカフェ「光の実験室～南極の星空をちょっとだけ作ろう～」では、宇宙圏研究グループ江尻省助教による工作教室が行われました。午前と午後の計2回開催されましたが、いずれの回も満席で大人気のブースでした。



一人一人に作り方を教える江尻助教

昭和基地と極地研を衛星回線をつないで行われた「南極ライブトーク」では、現地の隊員から昭和基地の案内や研究内容の説明がありました。昭和基地では現在、第57次南極地域観測隊の30名の隊員が越冬して観測や基地の維持管理を行っており、その中には女性が5名いるそうです。その中の1人、地殻圏変動のモニタリング観測担当の笹森映里隊員は、子どもからの「ペンギンの今日のごはんは何ですか」というかわいらしい質問にも丁寧に答え、またこの日の昭和基地の気温はマイナス5度、ブリザードが吹き荒れ、雪かきはブルドーザーを使う等、現地ならではの情報も話してくれました。

ライブトークは、樋口和生越冬隊長から「南極観測隊には研究者だけではなく、技術者やさまざまな専門技能を持った人もいます。その道のプロフェッショナルなら南極に行くことができます。会場の皆さんも目指してみては。」との言葉で締めくくられ、この日の極地研探検は終了となりました。いきいきと活躍する女性研究者の一面を知ることが出来た貴重な一日となりました。



昭和基地から質問に答える笹森隊員

輝く女性研究者紹介



統計学を通して社会貢献を

統計数理研究所 データ科学研究系 助教

廣瀬 雅代 先生

Q1 現在の研究テーマについて教えてください

「各地域や領域別の特性値への効率的な統計的推測法」についての研究を行っています。

全国規模で行われた調査のデータを用いれば全国の平均等の推定値は信頼できるものであると通常は考えられます。しかしその際、同じデータをもとに市区町村などの細かな地域別の特徴も知ろうとする場合、それぞれの地域のサンプルサイズが小さくなりやすく、その地域の情報だけを用いた推定精度は低くなってしまいがちです。この状況に対して、ある条件下では、他の地域の情報を適切に借りることによってより精度の高い地域像を類推できるような推定手法が構築される一方、実践面ではこの方法に対するいくつかの問題も指摘されています。その問題点を解決すると同時に推定精度も損なわないような、実践面で取り扱いやすい新たな統計手法の開発を行っています。

Q2 統計学を志したきっかけは何でしたか？

高校生の頃にSARS（編集注：重症急性呼吸器症候群、中国で発生し多数の死者をだした）が流行した際、薬は効くものという先入観が覆されて大変ショックを受けました。その時、新規のものを作り出す創薬に魅力を感じました。その一方で抽象的な数学の世界にも惹かれていたので、大学は数学寄りの学部に進学したのですが、大学3年の頃に、製薬会社で創薬の過程で統計学が不可欠であることを知り、数学と創薬、私がやりたかった2つのことの接点に統計学という分野があることを知りました。それが、統計学を学ぼうとしたきっかけでした。

Q3 研究に進もうと思われたのはいつ頃でしたか？

学部の際には統計学に魅力を感じていたのですが、当時、私が所属していた学科には統計学に関する講義がなく、ほぼ独学状態で大学院に進学しました。とても自由に研究ができる環境でゼミの発表準備等に打ち込んでいるうちにますます研究が楽しくなってきましたが、ひとりでやっていて行き詰まりを感じることもありました。そんな時指導教官からの勧めもあり、私のテーマに近い分野の研究が進んでいたアメリカへ留学をしました。その時はここでベストを尽くしても自身の研究テーマに目途が付かなかっただら、自分には研究の能力がないと諦める覚悟でしたが、幸いアメリカで良い先生との出会いがあり現在に至っています。その先生とは今でも共同研究を続けています。

Q4 統計数理研究所の雰囲気はいかがですか？

研究環境はとても良いと思います。何より、同じ研究所内でも様々な分野を研究している方がたくさんいて、視野が広がります。研究所では、私は一人で黙々と考えたり、数値実験したり、思いついた数式を書いたりしていることが多いのですが、時折話し相手になってくれる様々な立場の方もいて何かと助けられています。

Q5 今後、廣瀬先生の研究分野はどのような面で社会への応用が可能になりそうですか？

医学・健康の分野への応用は特に重要だと考えていますが、他にも様々な分野に適応が可能だと思います。少なくとも他国では、国で行われるような公的な統計の分野でも私が取り組んでいる問題が重要視されています。今後さまざまな分野での需要を把握することで、従来使われてきた統計的手法の問題点を見直すことが出来ると考えています。そのためには視野を広げ、多様な社会問題への取り組みを学んでいきたいと思っています。

Q6 将来はどのような研究に取り組みたいと考えていますか？

アメリカ留学時に、社会的な課題として貧困という問題があることに気づきました。政府からの予算は限りがありますが、推定精度があまりよくない状態のデータを基に各地方に均等に予算を割り振ることは平等ではありません。こうした場合に、推定精度の向上というのは実際にとても有用だと知ることができました。そのためには現場の問題を的確に把握することが大切ですので、現在はそういったことも考えながら研究をしています。将来は格差を是正する方向で、経済的困難者により効果的に支援の手が届くよう、地域ごとに異なる貧困率等の統計的推測法の精度をさらに上げることによって、社会貢献ができることを望んでいます。

研究者として非常にお若いにもかかわらず、社会問題に対する高い意識を持たれていることに感銘を受けました。研究環境の整った統数研で、今後も長期的視点に立った息の長い活躍を続けてくださることを期待しています。貴重なお時間を頂きありがとうございました。

機構内研究所「女性研究者活動支援室」の活動

● 統計数理研究所ランチョンミーティング

平成28年7月20日、統数研女性研究者活動支援室ランチョンミーティングを開催しました。

当日の参加者9名のうち、所内女性研究者は5名であり、その中から1名がロールモデルとして、ライフイベントと研究活動の継続に関する経験談を話しました。

参加者が互いの顔が見える形で机を囲み、分野や職位の枠を超えて気軽に交流する中で、各々が迎えるライフイベントや研究活動に関する身近な経験談が話され、女性研究者の躍進に向けた情報交換の良い機会となりました。

参加者からは「統計数理分野は比較的女性研究者の少ない分野という印象を持っていたが、こうして集まると意外に多くの女性がいて刺激を受けた」「またこうした機会を定期的

に持ちたい」という声があがりました。

統数研では平成28年度も新たな女性教員を迎え、女性研究者比率を着実に増やしつつあります。また、今年度はライフイベント中の教職員が比較的多く、この状況は研究者が働きやすい環境が整っていることの一つの顕れと言えるのではないのでしょうか。

統数研女性研究者活動支援室では、今後も女性研究者の研究力躍進に向けた各種支援に取り組んで参ります。



統数研ランチョンミーティング

● 国立極地研究所 第1回極地研女性研究者活動支援室主催セミナー

平成28年8月19日、公益社団法人日本工業英語協会の興野登講師による極地研主催セミナー「研究者に求められる科学技術英語論文の攻略法」を開催しました。

セミナー前半には冠詞の使い方についての講義がありました。冠詞が日本語で発達しなかった理由は何か、人種・文化的な違いがあることを前提とする英語圏でのコミュニケーションのあり方など、日本人が冠詞を苦手と感じる理由の解説と共に、定冠詞の誤った使い方が、結果として読み手を困惑させることに繋がるなど、非常に説得力のあるわかりやすい説明がありました。「冠詞の使い方に関する指導がとても印象に残った」という参加者からの意見がアンケートにも多く寄せられていました。

後半はパラグラフの構成に関する講義と実際の英文添削例を用いた実践編でした。論理的な構成を持った文章を書くこ

とはネイティブスピーカーにとっても容易ではなく、専門的な訓練が必要とのことでした。さらに、日本人が英語教育を長年受けたにもかかわらず科学英語論文を書くときに困難を感じる理由について、日本の英語教育の現状と課題にも言及され、「意図したとおりの文章を正しく書くことが出来るのは書き手だけであり、責任でもある、そのためにひとりひとりが日々精進してください」という激励の言葉で3時間半のセミナーは締めくくられました。

極地研女性研究者活動支援室では、既に開催された第2回『英語で書くビジネスライター・カバーライター』（9月6日）に続き、第3回『プレゼン・トレーニング』（11月14日）、第4回『遺伝研メソッドで学ぶ科学英語プレゼンテーション』（29年1月13日）と、これからも実践的で役に立つ企画で研究者を支援して参ります。他研究所からの参加も歓迎していますので、どうぞご参加ください。（女性の教員と特任研究員に限り旅費を支援します）

● 男女共同参画関連シンポジウムのご案内

中村淑子コーディネーターがパネリストとしてパネル討論に登壇します！

第14回 男女共同参画学協会連絡会シンポジウム

日時：2016年10月8日（土） 10:00～17:45

場所：お茶の水女子大学 共通講義棟1号館、2号館

主催：男女共同参画学協会連絡会

プログラム

午前の部

分科会① 「Unconscious biasについて考える」（日本生化学会）

分科会② 「女性のための賞の創設～その意義と効果を考える」（化学工学会）

午後の部

全体会議「日本と世界の研究者・技術者—これまでの支援策と女性比率」

パネル討論「まだまだ低い女性比率：伸ばすために何が出来る？」

分科会報告

シンポジウムURL

<http://www.djrenrakukai.org/symposium1.html>

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 女性研究者活動支援室

〒105-6033 東京都港区虎ノ門4-3-1

城山トラストタワー33階

Tel: 03-6402-6223

Fax: 03-3431-3070

E-mail: danjo-staff@rois.ac.jp

URL: <http://yakushin.rois.ac.jp/>

● 編集後記

最終年度を迎えたROIS女性躍進プログラム。ニュースレター第4号ではいきいきと働く女性研究者に焦点を当てました。統数研の廣瀬先生のお話から、現在取り組まれている統計手法が、さまざまな分野で応用され、より良い社会が間近に迫ってきているのを感じました。